２０２３（令和５）年3月４日
社会福祉法人角田共育ち会
理事長　藤﨑　隆

２０２３（令和５）年度事業計画書

１．事業計画にあたって

新型コロナウイルス感染対策を含め諸情勢の変化に対応しつつ「なかよしこどもえん」が目指す子どもの姿　①自分の要求を出し、なかまと育ち合う子ども　②心と体のバランスがとれて発達する子ども　を実現するために児童福祉法等に基づいた取り組みを進めます。

２．事業経営

（１）認可定員及び利用定員について

本年度と同様の１号認定１５名、２－３号認定８７名の合計１０２名とします。

	認可及び利用定員（単位：名）			
年齢	１号認定	２号認定	３号認定	計
０歳児			9	9
１歳児			12	12
２歳児			12	12
３歳児	5	18		23
４歳児	5	18		23
５歳児	5	18		23
計	15	54	33	102

（２）教育及び保育の内容に関する全体的な計画

別紙１「なかよしこどもえん　２０２３（令和５）年度教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を参照してください。

（３）年間行事予定

月	行事内容（避難訓練・お弁当の日・身体測定は毎月実施）
２０２３年３月	入園説明会
４月	入園を祝う会
５月	こどもの日　田植え　さつまいも苗植え　内科健診　未満児保育懇談会
６月	以上児保育懇談会　歯科検診　歯磨き指導　交通安全教室　以上児尿検査
７月	プール開き　七夕まつり　キャンプ
８月	なかよしまつり
９月	遠足
１０月	運動会　芋ほり　内科健診
１１月	未満児保育懇談会　３、４歳児保育懇談会　歯科検診　焼き芋大会
１２月	５歳児保育懇談会　クリスマス会
２０２４年１月	もちつき大会　演劇鑑賞（劇団風の子）交通安全教室
２月	節分　保育懇談会　入園説明会
３月	ひなまつり　お別れ遠足　お別れ会　卒園を祝う会

（４）食育計画

食育目標　『一人ひとりの子どもの食を営む力を育み豊かな心と体を育てる』

① 健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け「食」の大切さを見直し、「食」を通して、心と体の健康な子どもを育成することを目標とします。年齢にそった様々な活動を通し、社会性を養い、豊かな心、健康なからだを育てていきます。

② 給食コンサルタントの菅浪美智子先生の指導を引き続き受けます。

③ 給食試食会に取り組みます。行事では田植え、芋ほり、餅つき大会など食育に関する行事に取り組みます。

（５）施設利用者の拡大

① ２０２３年４月１日時点の施設利用児童数は８９名です。定員に対して１３名不足しています。

	利用定員（単位：名）				児童数（単位：名）				
年齢	１号認定	２号認定	３号認定	計	１号認定	２号認定	３号認定	計	過不足
０歳児			9	9			0	0	-9
１歳児			12	12			12	12	0
２歳児			12	12			12	12	0
３歳児	5	18		23	3	18		21	-2
４歳児	5	18		23	6	16		22	-1
５歳児	5	18		23	5	17		22	-1
計	15	54	33	102	14	51	24	89	-13

② ０歳児は定員を大きく下回っています。３歳児及び５歳児の年度途中の受け入れを進めます。

③ 職員の加配を予定している児童数は４歳児２名です。

（６）新型コロナウイルス感染症への対応方針

① 厚労省「社会福祉施設・事業所における新型インフルエンザ等発生時の業務継続ガイドライン」に沿って事業継続計画（ＢＣＰ計画）を策定します。

② 万一、感染者が発生した場合、この間の経験を踏まえ行政、保護者と連携してマニュアルにそって迅速に対応します。

③ 保護者、職員への連絡については導入済の「おがスマ」を活用します。

④ 職員に感染者あるいは濃厚接触者が発生した場合は出勤停止とするため、有給の「特別休暇」を活用し安心して休めるようにします。

⑤ 補助金で導入した空気清浄機を活用します。

⑥ 消毒マニュアルに沿った日々の消毒作業を実施します。

（７）安全管理と事故防止

① 園児の登降園管理については、おが～るシステムを活用します。

② お散歩コース安全管理マニュアルに沿った屋外活動を進めます。

③ 午睡チェックを０歳児は５分間隔、１歳児は１分間隔で実施します。

④ 避難訓練（火災・地震水害・不審者対策）を毎月１回実施します。

⑤ 安全点検チェックリストに基づく施設の点検を実施します。

⑥ 施設出入口前の交通整理を毎朝実施します。

⑦ 角田市防災安全課による「交通安全教室」に取り組みます。

⑧ 施設賠償責任保険は加入継続します。（１事故あるいは１名につき上限１０億円）

（８）園児の健康管理

① 内科健診（年２回）及び歯科検診（年２回）を実施します。

② 身体測定（月１回）、歯磨き指導（年１回）を行います。

③　以上児の尿検査（年１回）を行います。

（９）連携施設について

連携施設協定を結んでいるＮＰＯ法人かくだ共育ちの会が運営する角田なかよし保育園と引き続き各種行事の共同開催を進めます。

３．職員の処遇

（１）職員構成

２０２２年度は２名の常勤職員と１名の非常勤職員が退職しました。新卒１名の常勤職員を採用し運営体制を維持します。

職名	職員数
園長	常勤１名
副園長	未配置
主幹保育教諭	常勤１名
保育教諭	常勤１３名　非常勤４名
栄養士	常勤１名
調理員	非常勤５名
事務	常勤１名　非常勤１名
内科医、歯科医、薬剤師	嘱託各１名　※薬剤師は未定

（２）職員会議

①　職員会議（月１回)、年度末については終日２日間

②　以上児会議、未満児会議（月２回）

③　給食会議（月１回）

（３）職員の教育研修

①　８月に福島県郡山市で開催される全国合研に実地＋オンライン参加します。

②　宮城合研についは新型コロナ感染症の状況を見ながら参加を検討します。

③　仙南保育所連合会の研修に参加します。

（４）職員の処遇その他

①　処遇改善等加算手当を引き続き支給します。

②　職員の年間休日数は、業種平均を上回る年間１１２日を確保します。また有給休暇取得率は８割以上を計画します。

③　常勤職員の退職金制度として、引き続き福祉医療機構退職共済制度及び宮城県民間社会福祉振興会退職共済制度に加入します。また非常勤（パート）職員については中小企業退職金共済制度（中退共）に加入します。

④　福利厚生の一環として年末の職場忘年会の費用補助を行う予定ですが、新型コロナウ

イルスの感染状況を見極めたうえで実施します。

⑤　法人負担で健康診断（年１回）と検便（毎月）を行います。

４．その他

（１）その他事業

①　一時預かり事業、延長保育事業を継続します。

②　子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業である子育て支援拠点事業「すくすく広場」についてはコロナの感染状況を見極めながら開催します。

③　公益的事業として、中学、高校、大学、専門学校の生徒の研修や実習の受け入れを行います。また、角田中学校「外部講師による講話（家庭科）」に理事長が講師として参加します。

（２）危機対策

①　保護者へのメッセージ一斉配信システム「おがスマ」を活用します。

②　災害備蓄食料を確保します。　保管は赤い羽根共同募金の補助金で購入した物品庫を活用します。※備蓄食料の目安：（全児童数＋全職員数）×３食×（１日～３日）分

③　セコムからリースしているＡＥＤの使い方講習を受けるようにします。

④　コロナ感染症対策も含めてＢＣＰ（事業継続計画）の策定を行います。

（３）保護者に向けて

保護者と職員の会「なかよしどんぐり会」の取組みを進めます。

（４）購入予定備品及び施設改善

①　給食用食器及び厨房調理器具備品の補充を行います。

②　職員駐車場の植木の剪定を行います。

（５）その他

①　苦情対応の第三者委員を昨年に引き続き複数体制とします。元玉川大学教授鈴木牧夫氏と当会監事の手塚収氏に委嘱します。

②　サービスの質の向上に向けて宮城県が進める「福祉サービス第三者評価」受審の準備を進めます。

別紙１

なかよしこどもえん　２０２３（令和５）年度教育及び保育の内容に関する全体的な計画

事業の目的	保育の公共性や公益性を自覚し地域の子育て支援事業の一翼を担い、これまでなかよしこどもえんの門をくぐった子どもたちやこれから出会う子どもたちの育ちを見守り続けます。そして将来的にも安定的な保育事業を展開していきます。
教育・保育理念	私たちは就学前のすべての子どもたちがなかまとの遊びを中心とした生活の中で学び、ともに育つ施設となることを目指します。そして子どもを見守る大人たちも子どもの育ちに驚き、共感し共に育ちあう関係を望みます。
教育・保育方針	安全・安心を第一に、子どもが生きている今を生き生きとのびのびと生活できるように、より楽しく、よりおもしろく生活し子ども自身が生きる力を学び取る環境をみんなで作っていきます。
教育・保育目標	子どもは、なかまと共に遊びを中心とした生活の中で育ちます。土や水・風を感じながら遊び、人や物に働きかけて学びます。子どもと共にこの乳幼児期をより楽しく、よりおもしろい生活で包み込んでいきます。

★1 号認定：教育標準時間⇒8:30～13;30　　預かり保育⇒ 7;30~8;30 / 13;30~19:00

★2・3 号認定；保育標準時間（短時間）⇒7;30（8:30）～18;30（16;30）延長保育 7;00~7;30（8;30） / 18:30(16;30)~19:00

子どもの教育及び保育目標

0 歳児	❶よく眠りよく食べて機嫌よく遊べる生活リズムを作る。❷さまざまな要求を引き出して、言語の獲得につなげる。❸安定した歩行に向けて、その基礎になる力をつける。❹大人との安定した人間関係を作り、共感関係を育てる。
1 歳児	❶ぐっすり眠ってしっかり食べて機嫌よくたっぷり遊ぶという生活リズムの確立。❷自分でという意欲を育て自分でやろうとする力を徐々に身につけていく。❸自分の気持ちを友達や大人に言葉で伝え、かかわりあえるようにする、共感しあう中での豊かな人間関係を築く。
2 歳児	❶基本的生活習慣の自立。ゆっくり援助しながら意欲を引き出していく。❷一ひとりひとりの子どもが安心して自分の言いたいことややりたい事を表現できるように心がける…❸遊びが豊かになってくる時期であり保育者が中心になって子ども同士をつなげながら遊びを広げていく。❹自己主張じぶんでいやなど強く表れる時期であるが子ども自身の主張を大切に受け止めながら自分で納得して気持ちを転換できるように保育を進める。❺生活体験を豊かにして乳幼児期への転換期を幅を持たせながらゆっくり進める。
3 歳児	❶楽しいことをみんなで共感したり、一緒に遊ぶ喜びを感じられるようにする。❷自分の身の回りのことは自分でできるようにする。❸遊びの中で全身をたっぷり動かす。❹自分の想いをいっぱい出したり友達の思いにも気づいていけるようにする。
4 歳児	❶友達と一緒に生活したり遊ぶ楽しさを知る中で、自分の想いを相手に伝え、相手の想いも聞けるようにする。❷何事にも「やってみよう」と興味を持ちチャレンジしようとする。
5 歳児	❶新しい課題に挑戦する意欲と粘り強くやろうとする力を持つ。❷仲間と遊ぶことを楽しむなかでその遊びをより豊かに発展させていくことができる。❸感じたこと、想像したことを豊かに表現できる。❹生活や遊びの中で仲間と共に考え、協力しあい行動できる。

特に配慮すべき事項

【健康支援】
★健康及び発育発達状態の定期的・継続的把握
★年２回の嘱託医による健康診断（内科・歯科）
★登園児及び保育中の状態観察、また異常がみられた時の適切な対応
★年１回の職員健康診断及び毎月の検便（栄養士・調理員・調乳担当者）

【環境・安全・衛生管理】
★施設内外の設備、用具などの清掃及び消毒
★施設内外の設備、用具などの安全管理及び自主点検
★子ども及び職員の清潔保持
★コロナ感染症、インフルエンザへの対応
★毎月の避難訓練（火災、地震、不審者対応）の実施
★被災時における対応と備蓄
★消火訓練の実施

【給食目標】
★安心・安全な地元の旬の食材を取り入れ食べる楽しさを味わう
★五感を使って感じ、しっかり食べることで体が元気になる

【食育の推進】
★栄養バランスを考え自園給食の提供
★全園児へ炊き立てご飯の提供
★行事食の提供
★菜園作りの実施★クッキングの実施

【子育ての支援】
★入園のしおり・パンフレットの配布
★地域子育て支援的活動（育児相談等）
★保護者との連携協力
★実習生及び中学生保育体験の受け入れ
★給食試食会などを通した食育への理解
★危機管理体制の掲示
★その他緊急を要する情報の通知

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
主な行事	入園と進級を祝う会	給食試食会 未満児保育懇談会 さつま芋苗植え 田植え 内科健診 こどもの日	歯科検診 歯磨き指導 以上児保育懇談会 交通安全教室	（年長） サマー・キャンプ 七夕まつり プール開き	（夏祭り） なかよしまつり	親子遠足	芋ほり 運動会 内科健診	ぞう組以外クラス保育懇談会 未満児保育懇談会 歯科検診	クリスマス会 ぞう組保育懇談会	もちつき大会	入園説明会 節分 保育懇談会	卒園を祝う会 ひなまつり お別れ遠足

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
養護	生命の保持	＊基本的・日常的生活活動の基礎を作る。 ＊24 時間を見通した生活リズムを確立する。	＊食事や睡眠、排せつ、衣服の着脱などの基本的生活活動を『じぶんから』『じぶんでしよう』とする意欲を育てる ＊基本的生活習慣の基礎を作る	＊一人でやろうとすることを大切にしながら大人と一緒にやったり、大人に見守られてやってみようとしたり、見通しを持って一人でやってみる。	＊じぶんの身の回りのことは自分でできるようになろうという基本的生活習慣の確立。	＊じぶんの事はじぶんでしようという基本的生活習慣の確立。	＊健康的な生活に必要な習慣の意味や大切さを理解して見通しをもって自主的に行動できる。
	情緒	＊こどもえんで生活する子どもたちひとりひとりが安心できる場所となるようにする。	＊子どもたちが少し先の見通しを持てる生活を作っていく。 『ゆったりした雰囲気が大切』	＊自立への強い思いやこだわりはあるものの、あくまでも「依存しながら自立する」存在。安心して依存できる大人がそばにいることで自立への一歩を踏み出す。	＊子どもから信頼され子どもが安心できる基盤になる。 ＊保育者と子どもとの良好な関係をつくる。 ＊ひとりひとりの子どもが直面している段差をどのようにとらえどのようにこえようとしているのか、想像し続けることを大切にする。	＊集団の陰で揺れている子どもはいないか、目を配りながら葛藤する子どもの心に寄り添うことが大切。 ＊できる自分、かっこいい自分をほめてもらうだけでなく、情けない自分も丸ごと受け止められる経験が大切。	＊集団に責任を持ち、仲間と協同する力が育つ時期に子どもの意見を最大限尊重する。
教育及び保育【領域】	健康	＊薄着・裸足で過ごす。 ＊年間を通して水分補給をする。 ＊日差しが強いときは帽子をかぶる	→	→	→	→	＊健康に必要な習慣の意味がわかり、いつでもどこでもできる。
	【あそび】	＊自然物や身近な用具、おもちゃなどの素材に興味や関心を持ち、すすんで遊んだり試したりする。 ＊好きな遊びやおもちゃを見つけて楽しむ。 ＊２指で小さい物をつまむ。 ＊高く積み上げたり、ものの出し入れを楽しむ。 ＊二足歩行が出来たり、場に応じた体の動きをしようとする。	＊いろんなつもりが楽しい時期。イメージでつながる体験を大事にたっぷり楽しい遊びを繰り返していく。 ＊繰り返し遊ぶなかで自分の遊びを広げる。 ＊まてまて、かくれんぼ、手遊び、ごっこ遊びを楽しむ。	＊水・砂・土遊び・散歩をたくさん取り入れ充分に楽しむ。 ＊みたて・つもりの世界でたくさん遊び、イメージを膨らませていく。 ＊リズムに合わせて歩いたり、体を動かしたりする。	＊保育者やまわりにいる友達の存在に安心し一人でも友達とでも夢中になって遊ぶことができる。 「体も心もほぐす愛の鬼ごっこ」「泥だんご作り」など ＊基本動作を追及する中で「できる」という達成感を積み重ねていく。	＊楽しい遊びをやりつくせるようにする。 ＊みんながつながる楽しさを味わう集団遊び（氷鬼・どろけいなど） ＊わらべうたでつながり心地よい時間を共有する。	＊ワクワクドキドキするような体験を大切にする。 ＊自分たちで遊びを広げたり、作ったり発展させて遊べる。 ＊自分たちで簡単なルールを作って遊ぶ。
	【人間関係】	＊まてまて遊び・いないいないばあ遊びをたっぷり楽しむ ＊保育士が仲立ちとなりながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。	＊‘一緒に生活する仲間と『気分』を共有し、イメージを共有しながら遊ぶ事を何よりも楽しく感じる。『みんなと一緒に』が楽しい時期。	＊自分を尊重してほしい」という思いも強くなり、友達同士での自我と自我のぶつかり合いによるトラブルが見られるようになる。 ＊友達とつながり合いを求めてそこに喜びや満足、楽しさや心地よさを感じるとともに自分や友達のさまざまな姿に出会い悩むがそうした体験が心の発達を後押ししてくれる。	＊楽しい遊びや生活を作りながら友達関係を大切にしていく。 ＊友達とかかわりあう中で、みんなでやる楽しさを体験させる。 ＊友達とのぶつかりも大切にしお互いの気持ちを言葉で伝え合えるように、また納得できるような解決を、ひとつひとつしていく。	＊対等で安心できる仲間関係をつくる。 ＊『多様な価値観』に触れる経験を通して、多様性を認め合う人間関係を意識的に育てていく。 ＊子どもたちの要求に可能な限りこたえる。	＊友達の想いをみんなで考えながら、「子どもたちが決める」ことを大切にする。 ＊ひとりひとりの声を大事にする。 ＊みんなで心から『楽しいな』と思える体験こそが、子どもを変えていく力になる。
	【環境】	＊好きな時に好きなおもちゃを自分で手に取り、遊べる環境を設定する。(子どもたちの期待・意欲を大事に育てる)「 ＊「寝る空間」「遊ぶ空間」「食べる空間」を分け子どもたちが心地よく過ごせる環境を整える。	＊子どもたちの育ちに合わせ、布団の敷き方を変えてみたり、昼寝起きに楽しい活動を用意して、子どもたちに見通しを持たせるようにしてみたり、と子どもたちが自分で気持ちを切り替えられるような働き方や環境作りを工夫する。	＊遊びに必要な物やスペースを用意し、友達と関われる場面や機会を多くつくる。 ＊安心できると同時に好奇心や探求心をかきたてられるような環境を作っていく事が大切。	＊遊びの興味が広がる時期なので多様な遊びを設定する。 ＊やりたいと思うことが充分できるように時間的な余裕を持てる時間配分にする。	＊気持ちよく遊びに関われるように、保育室や遊具を整理する。 ＊こどもが『こうしたい』という思いにあうような素材、材料を提示し作れるような環境を整えておく。	＊様々な材料を準備し、子どもが自由に遊べる環境をつくる。 ＊自然に関する図鑑、絵本などを準備し興味を持ったことを積極的に調べられるようにする。
	【言語】	＊友達の名前がわかる。 ＊自分の要求を動作で表そうとする。	＊イヤ、ほしい、～したいなどの自分の気持ちを友達や大人に言葉で伝えかかわりあえるようにする。	＊一語文から二語文、三語文と言葉が爆発的に増加し上手に使いこなせるようになる。 ＊言語を獲得しながら、自分の思いを大人や友達に伝えようとする。	＊著しく、言葉が発達する時期。シャワーのように色々な言葉を楽しく聞ける環境をつくる。 ＊絵本の読み聞かをたっぷりする。 ＊子供から言葉を引き出しやり取りを楽しむ。	＊相手の言葉に耳を傾ける中で、自分の本当の気持ちを確認し、改めて意見をわかりやすく表現できるようになる。	＊友達の気持ちを読み取り言語化の援助をしようとする。
	【表現】	＊子どもも大人も「おもしろい」「楽しい」「心地よい」と感じられるいろいろな絵本との出会いを大切にする。 ＊感触あそびなど,『おもしろそう』『触ってみようかな』『やってみようかな』と気持ちが動いたり意欲や期待感をいっぱいふくらませる。 ＊描くことが生活の中に当たり前にある心がいっぱい動く環境をつくることで豊かな感性を育てる。	＊砂・泥・遊びをダイナミックに取り組む。 ＊色画用紙とマジックのなぐり描きをする。 ＊小麦粉粘土をしたり絵の具でぬたくりをする。 ＊リズム遊びや手遊びをする。 ＊感情表現が豊かになり満足した気持ちを土台におどけたり、ふざけたりするようになる。 「まねをしあって戯れる」という意味で『ふざける』事は１歳児の大事な遊びの力になる。	＊周囲の自然や事物への探索や探求を楽しみ、絵本や紙芝居、歌など、様々な文化との出会いを楽しむようになる。みたて・つもりなどごっこの世界を作り出し仲間と一緒に楽しむようになる。	＊異なった表現をするひとりひとりを大切にする。 ＊現実と虚構のどちらの世界も豊かにふくらませる。 『保育者が何かになりきって虚構の世界をつくり、子どもは自分とは違う何かになりきるなどなりきり遊びをしかける。	＊ただ、モノを加工するだけでなく、新たなモノを自分の頭でイメージして作っていくことができるようになる。(紙工作など) ＊どの子も自分の想いを表現できるような雰囲気作りを大切にする。	＊経験したことを絵に描いて筋道を立てて表現できる。 ＊道具を使いこなせる ＊作って遊ぶ楽しさを知り、それを使ってルールを守って遊ぶ。 ＊みんなで声を合わせて歌うことが楽しいと思える。 ⋆見たことを表現して楽しく遊ぼうとする。